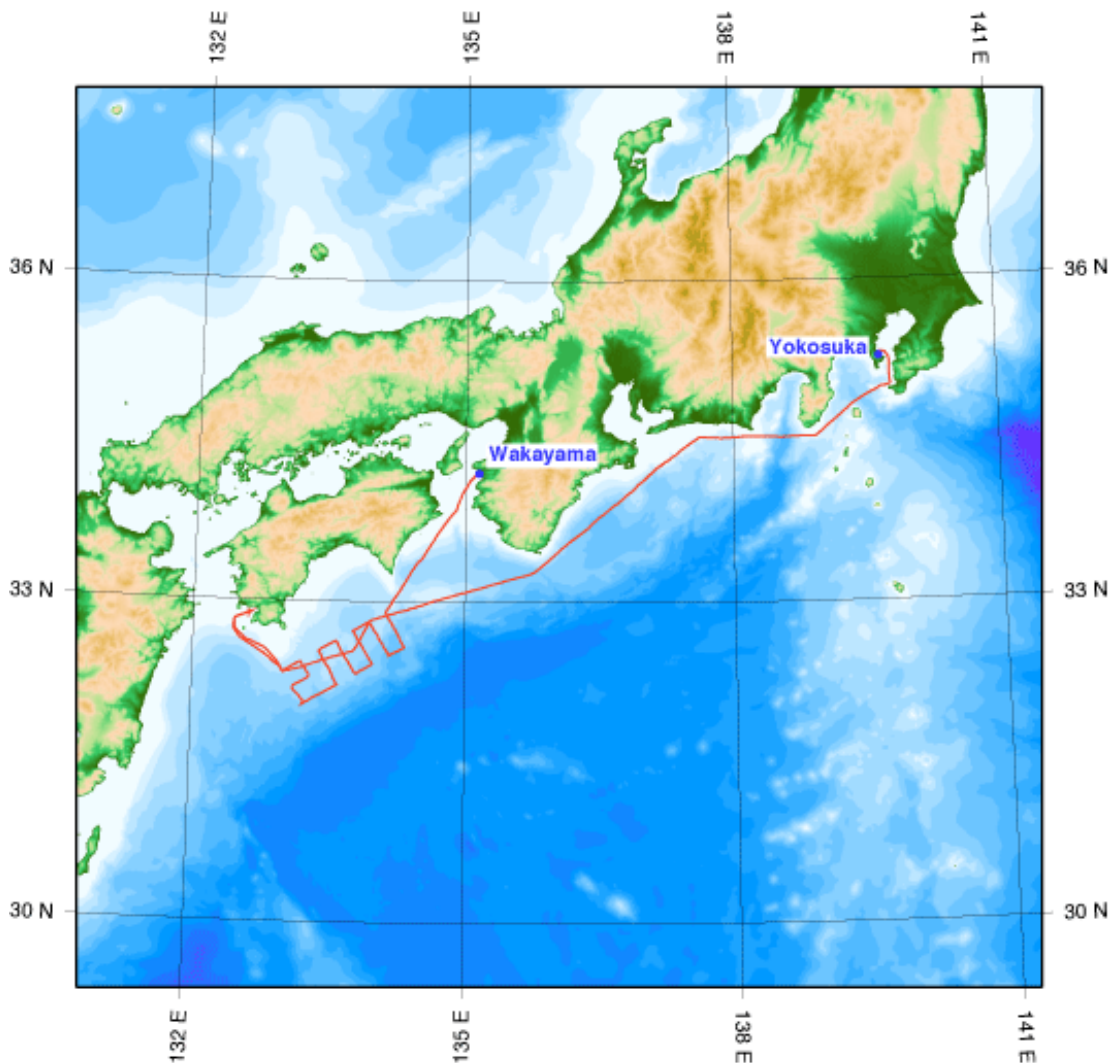


クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY10-08 Leg. 2・「かいよう」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成 22 年度受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：藤森英俊・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
「受託研究 東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成 22 年 6 月 16 日～6 月 22 日・和歌山下津港～海洋研究開発機構岸壁
- (7) 調査海域：四国沖
- (8) 船舶の航跡図：

R/V KAIYO Cruise Trackline in KY10-08 Leg2



2. 本文：

(1) 目的：

本航海は、文部科学省受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための 調査観測・研究」の個別研究テーマ「南海トラフ域海域地震探査・地震観測」（平成 20 年度から受託）の一環として実施した。

南海トラフでは海溝型巨大地震である東海・東南海・南海地震が 100 年から 150 年の周期で繰り返し発生していることが知られているが、これらの地震が連動して超巨大地震となるケースがあることが指摘されている。この地震について、どのような場合に連動性の超巨大地震となるか、あるいは非連動性の巨大地震となるのかについて明らかにすることが必要である。また、連動性の超巨大地震の中には、日向灘まで破壊域に含まれる可能性も示唆されており、南海トラフ巨大地震の連動性評価を考える上で、日向灘の地殻構造や地震活動も重要な情報となる。

日向灘の地殻構造と地震活動の把握を目的とする調査は平成 20 年度に実施した。本年度は日向灘から四国沖までの詳細な構造のイメージング、および、紀伊半島沖付近で発生している低周波地震や微動を把握することを目的とする。

これらの目的を達成するため、海洋調査船「かいれい」KR09-14 航海によって短周期地震計 (OBS) を四国沖に設置し、屈折法・反射法地震探査および自然地震観測を実施した。本航海では KR09-14 航海によって設置され、自然地震観測のデータ取得を行った 21 台の OBS の回収を行う。

航海中は、地震探査調査と併せて、海底地形観測や重力・地磁気調査を並行して実施する。

(2) 実施項目：

1) 海底地震計 (OBS) の回収

四国沖にて海底地震計 21 台を回収した。

2) 海底地形

測線上にてマルチビーム測深器を用いて海底地形データを取得した。

3) 音速補正のための水温・塩分濃度観測

海底地形調査の音速補正用に expendable-Bathy Thermograph (XBT) 計測を実施した。